

CASE 関連技術の強化に向けた研究会の開催について

経済産業省は、CASE※関係の自動車技術の強化に向けて、有識者、自動車会社、サプライヤなどからなる「CASE 技術戦略プラットフォーム」を開催します。100年に1度と言われる自動車産業の大きな変化に対し、官民で取組を強化すべき技術分野について議論します。

※コネクテッド、自動走行、シェアリング&サービス、電動化

1. CASE 技術戦略プラットフォームについて

本年4月に開催された「自動車新時代戦略会議」では、CASE という100年に1度と言われる大きな変化を乗り越えるため、地域におけるモビリティサービスの普及やエネルギーシステムとの連携などのモビリティ社会の将来像を掲げるとともに、その基盤として、自動車会社とサプライヤとが次世代技術の動向や対応戦略を共有し、協調領域を拡大するなどにより、対応力を高めていく方向性が示されました。

《社会像》	《当面の主な課題》	《取組の方向性（案）》
低炭素・分散・強靭な自動車・エネルギー融合社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 車載用電池のライフサイクル価値向上 ● 商用EV・FCVのユースケース開発 ● BCP活用等の拡大 ● 電力ネットワークのルール整備 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 車載用電池リユース市場の構築 ■ ユースケースに適した商用EV・FCVの開発 ■ 地域や企業の優良事例のヨコ展開 ■ 電力会社やユーザー、自治体等と連携し上記取組を加速する「電動車活用社会推進協議会」創設
移動弱者ゼロ化、豊かな移動による豊かな地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域と企業の協働促進、異業種・ベンチャーの参画促進 ● 無人移動サービスを可能とする環境づくり（レベル3→4へ） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新たなモビリティサービス導入に向けた「地域×企業」の挑戦支援（国交省との連携で今春から新プログラム「スマートモビリティチャレンジ」創設） ■ レベル4 移動サービス早期実現に向けた環境整備の検討本格化
渋滞等の都市問題解決、効率的デジタルスマートシティ	<ul style="list-style-type: none"> ● 車中・路車間等のデータ通信環境（インフラ・セキュリティ等）の整備 ● 車の内外に跨るデータ連携基盤の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ サイバーセキュリティに係るガイドライン策定と国際連携強化 ■ 交通事業者を含む都市交通データの連携・活用ルール等の検討開始、ダイナミックマップの高度化
上記社会像実現に向けた事業基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車工学とソフトウェアエンジニアリングを担えるIT人材不足 ● 既存領域、新しい領域双方の開発効率化 ● 関連産業の対応力強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ IT人材育成・発掘の強化 ■ サプライヤを広く巻き込んだ技術動向及び対応戦略の共有強化、更なる協調領域の拡大

（第3回自動車新時代戦略会議資料1抜粋・一部改変）

これを踏まえ、本日（11月8日）、有識者、自動車会社、サプライヤなどからなる「CASE 技術戦略プラットフォーム」開催します。官民や民の連携により、技術力を高めるべき重要技術分野について、議論を進めていきます。

2. 今後のスケジュール

2020年2～3月頃 第2回（予定）

3. 議事等の取扱い

資料・議論内容等は非公表とさせていただきます。

（お問合せ先）

製造産業局自動車課参事官 吉村 直泰

担当者：西野、佐藤（吉）

電話：03-3501-1511（内線 3831）

03-3501-1665（直通）